

防災に関するアンケート調査

～アンケート集計結果～

1. 調査概要

(1) 調査対象

全国の20歳以上の男女で調査会社の登録者（モニタ）

有効回収回答数：2,000（都道府県別・性別・年齢別割合を国勢調査人口比に割付）

調査期間：平成21年2月3日～2月13日

調査方法：ウェブ調査

(2) 調査目的

国民一人一人の災害対策に関する意識と、対策の実施状況ならびに対策が進まない理由について調査し、今後の災害被害を軽減するための国民運動の展開の参考とする。

(3) 調査項目

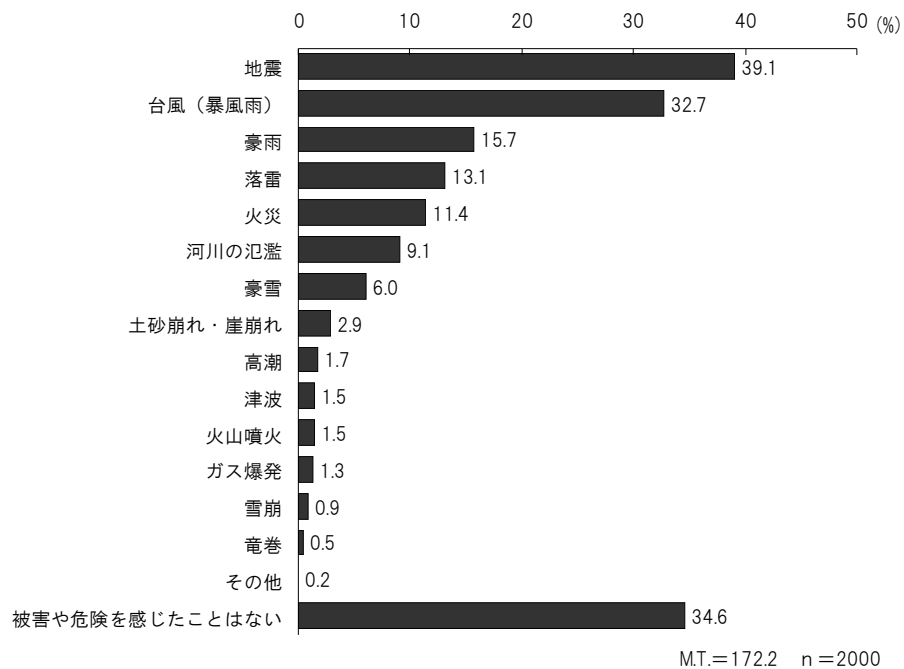
- ① 災害対策に関する意識
- ② 地震対策に関する意識
- ③ 防災情報に関する意識
- ④ 防災関連のイベントに関する意識
- ⑤ 災害時の助け合いに関する意識
- ⑥ 自助・共助の促進のために国や自治体に期待すること

2. 調査結果の概要

(1) 災害対策に関する意識

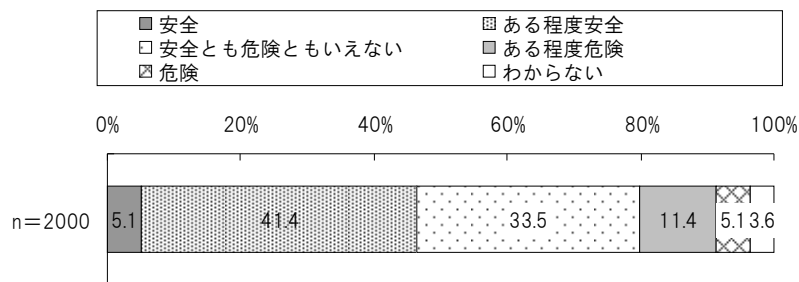
① 災害被害・危険覚知の経験 (Q1)

- 被害を受けたり、身近に危険を感じたりしたことのある災害として、「地震」をあげた回答者の割合が39.1%と最も高く、次いで「台風(暴風雨)」が32.7%、「豪雨」が15.7%、「落雷」が13.1%と続いている。
- 一方、34.6%の回答者が「被害や危険を感じたことはない」と回答している。



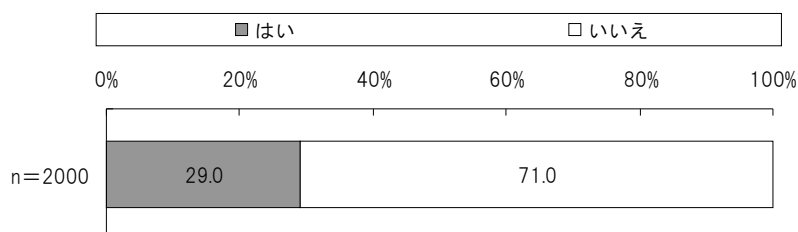
② 居住地域の安全度 (Q2)

- 居住地域が災害に対して安全かどうかについては、「ある程度安全」と答えた回答者の割合が41.4%と最も高く、「安全」と答えた回答者の割合と合計すると46.5%となる。
- 「安全とも危険ともいえない」と答えた回答者の割合は33.5%である。
- 「危険」または「ある程度危険」と答えた回答者の割合は16.5%である。



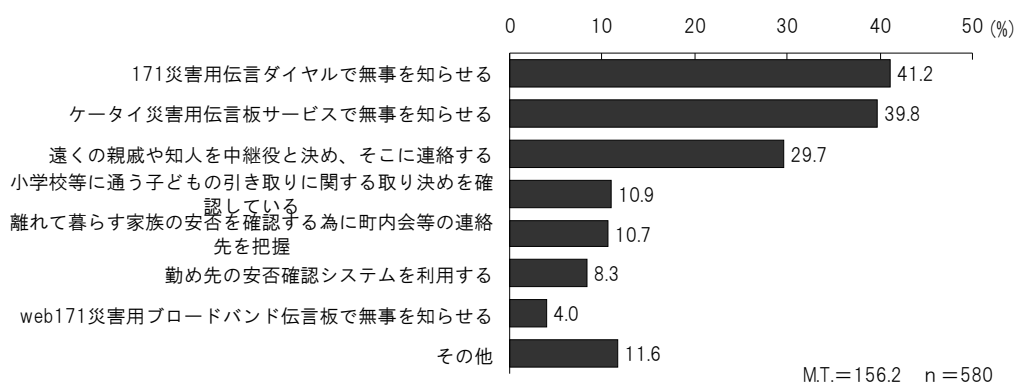
③ 家族等との安否確認方法の取り決めの有無（Q3）

- 家族や身近な人と、災害が起きた時の安否確認方法について話し合い、取り決めている回答者の割合は 29.0%にとどまっている。



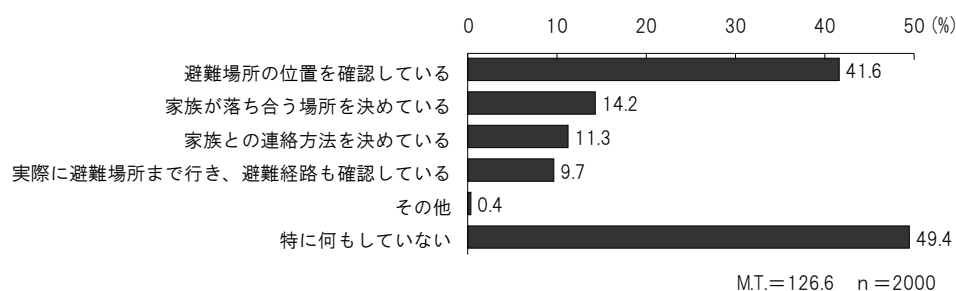
④ 安否確認方法（Q3-1）

- 安否確認方法について話し合い、取り決めていると回答した 580 人に対してその方法を尋ねたところ、「171 災害用伝言ダイヤル」をあげた回答者の割合が 41.2%と最も高く、次いで「ケータイ災害用伝言版サービス」が 39.8%、「遠くの親戚や知人を中継役と決め、そこに連絡する」が 29.7%と続いている。



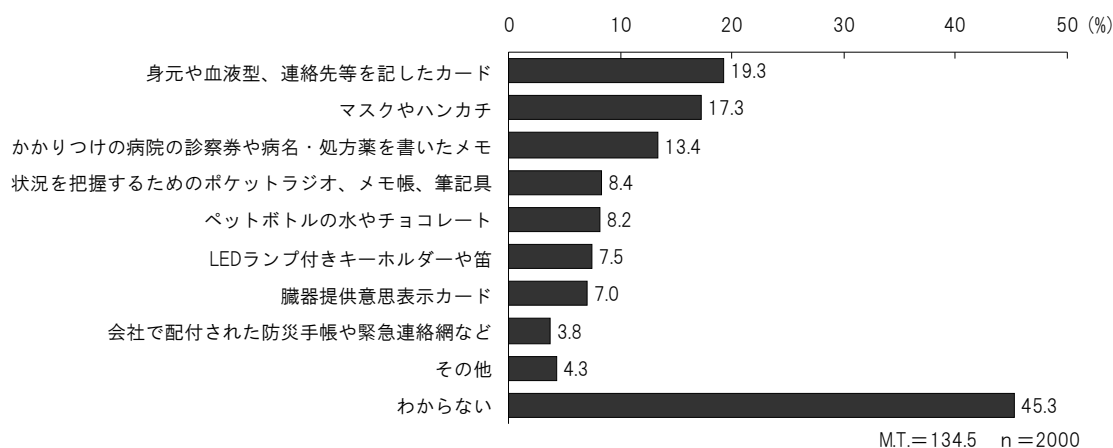
⑤ 自宅外への避難に備えた対策（Q4）

- 自宅以外の場所へ避難しなければならない事態に備えた対策については、「特に何もしていない」と答えた回答者の割合が 49.4%と最も高い。
- 「避難場所の位置を確認している」と答えた回答者の割合は 41.6%と比較的多く、次いで、「家族が落ち合う場所を決めている」が 14.2%、「家族との連絡方法を決めている」が 11.3%と続いている。



⑥ 外出中の被災に備えて携帯しているもの（Q5）

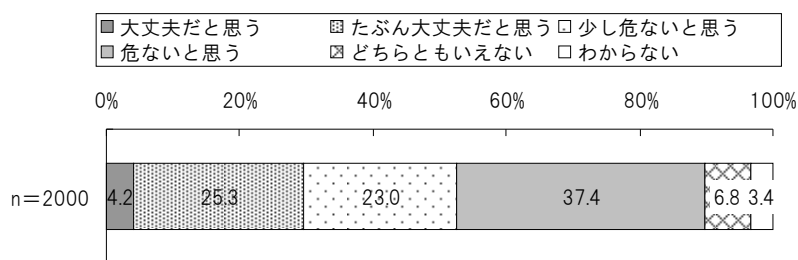
- 外出中の被災に備えていつも身に着けているものについて、「わからない」と答えた回答者の割合が 45.3%と最も高い。
- 外出中の被災に備えていつも身に着けているものとしては、「身元や血液型、連絡先等を記したカード」をあげた回答者の割合が 19.3%と最も高く、次いで、「マスクやハンカチ」が 17.3%、「かかりつけの病院の診察券や病名・処方薬を書いたメモ」が 13.4%と続いている。



(2) 地震対策に関する意識

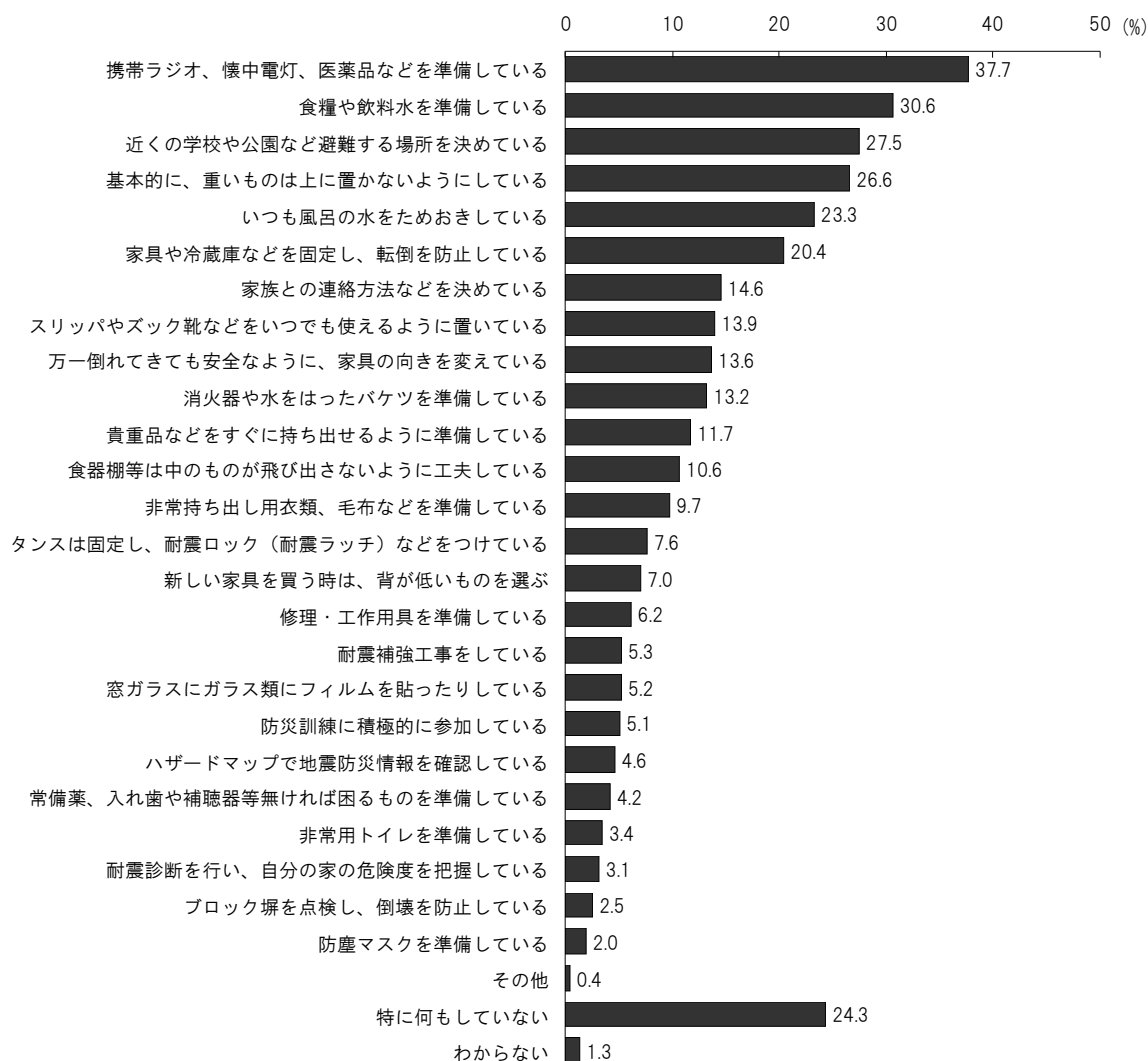
① 大地震に対しての住居倒壊・損傷の可能性 (Q6)

- 住居が阪神・淡路大震災のような大地震に対して倒壊や損傷をしないかどうかについては、「危ないと思う」と答えた回答者の割合が 37.4%と最も高く、「少し危ないと思う」と答えた回答者の割合と合わせると 60.4%となる。
- 大地震が発生しても住居は「大丈夫だと思う」と答えた回答者の割合は 4.2%と少ないが、「たぶん大丈夫だと思う」の 25.3%と合わせると 29.5%となる。



② 大地震に備えた対策（Q7）

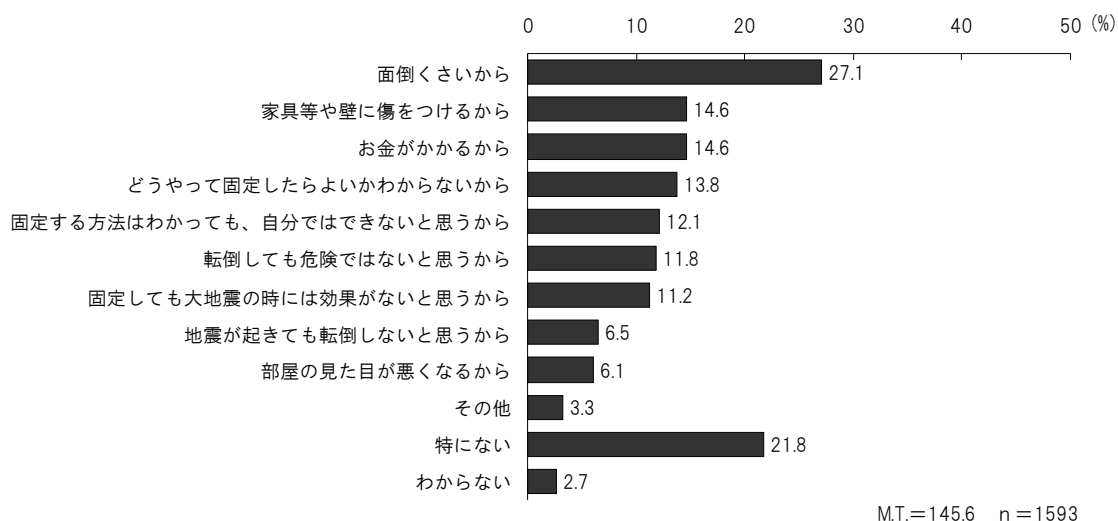
- 大地震に備えて実施している対策としては、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」をあげた回答者の割合が 37.7%と最も高く、次いで、「食糧や飲料水を準備している」が 30.6%、「近くの学校や公園など避難する場所を決めている」が 27.5%と続いている。
- 「家具や冷蔵庫などを固定し、転倒を防止している」をあげた回答者の割合は 20.4%にとどまっている。家具の転倒防止に関連する対策としては、「基本的に、重いものは上に置かないようにしている」が 26.6%、「万一倒れてきても安全なように、家具の向きを変えている」が 13.6%、「新しい家具を買う時は、背が低いものを選ぶ」が 7.0%となっている。
- 「耐震補強工事をしている」をあげた回答者の割合は 5.3%、「耐震診断を行い、自分の家の危険度を把握している」は 3.1%である。



M.T.=335.6 n=2000

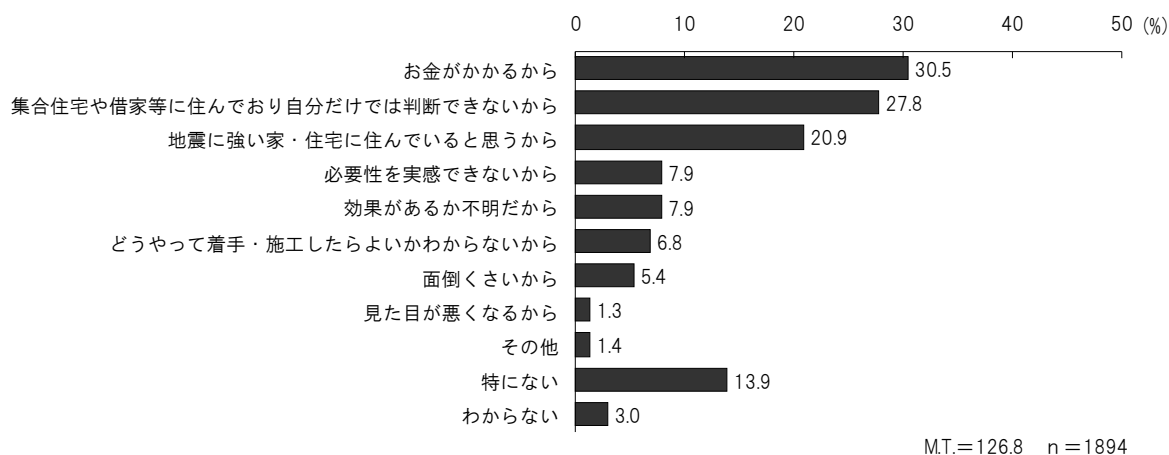
③ 家具や冷蔵庫を固定していない理由（Q7-1）

- 家具や冷蔵庫を固定していないと回答した 1,593 人に対して、その理由を尋ねたところ、「面倒くさいから」をあげた回答者の割合が 27.1%と最も高く、次いで、「家具等や壁に傷をつけるから」、「お金がかかるから」がそれぞれ 14.6%と続いている。
- 一方、理由は「特にない」と答えた回答者は 21.6%である。



④ 耐震補強工事をしていない理由（Q7-2）

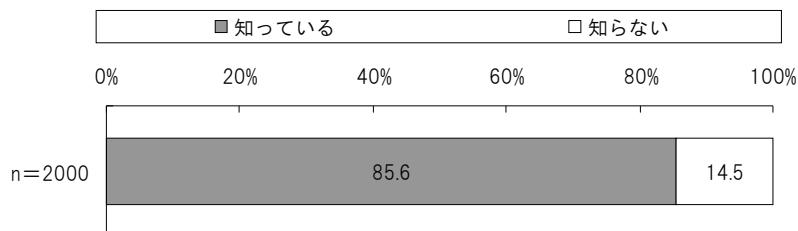
- 耐震補強工事をしていないと回答した 1,894 人に対して、その理由を尋ねたところ、「お金がかかるから」をあげた回答者の割合が 30.5%と最も高く、次いで、「集合住宅や借家等に住んでおり自分だけでは判断できないから」が 27.6%、「地震に強い家に住んでいると思うから」が 20.9%と続いている。
- 家具や冷蔵庫を固定していない理由の筆頭としてあげられた「面倒くさいから」をあげた回答者の割合は 5.4%にとどまっている。



(3) 防災情報に関する意識

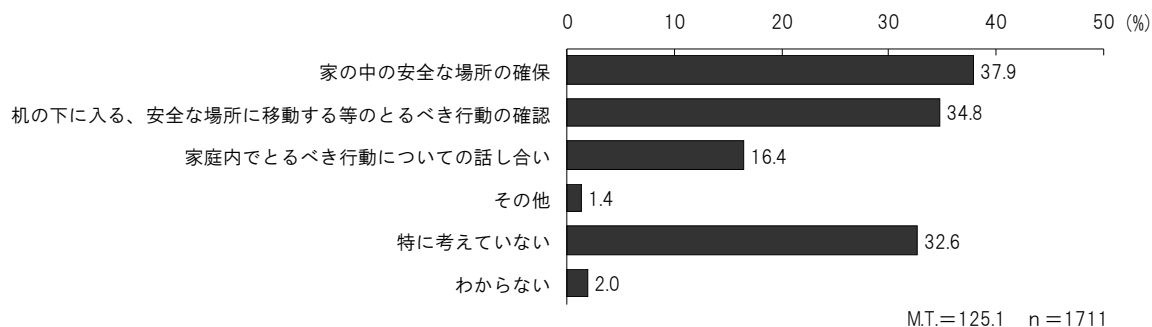
① 緊急地震速報の認知度 (Q 8)

- 緊急地震速報については、「知っている」と答えた回答者の割合が 85.6%である。



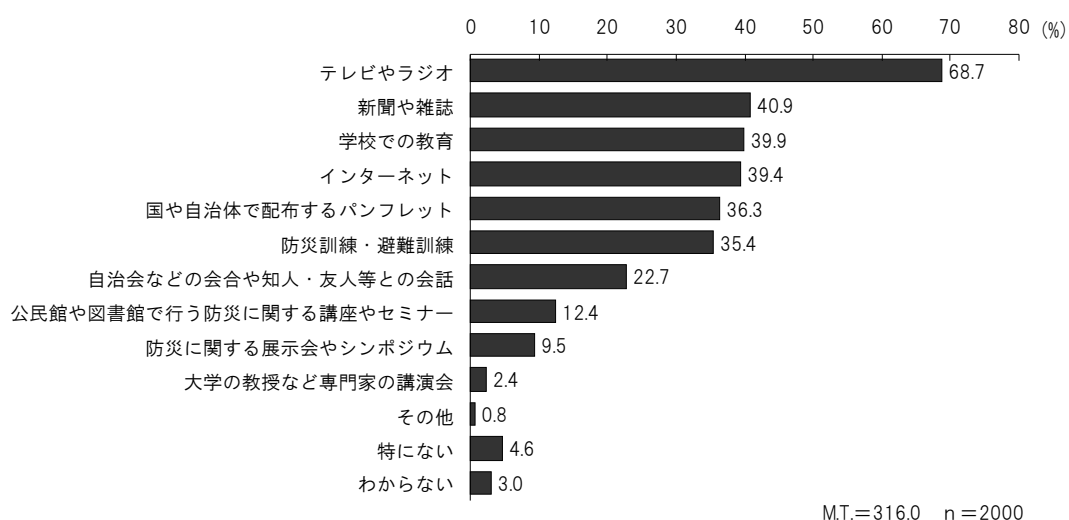
② 緊急地震速報の受信を想定した準備 (Q 8-1)

- 緊急地震速報を知っていると回答した 1,711 人に対して、受信を想定してどのような準備をしているか尋ねたところ、「家の中の安全な場所の確保」をあげた回答者の割合が 37.9%と最も多く、次いで、「机の下に入る、安全な場所に移動する等のとるべき行動の確認」が 34.8%、「家庭内でとるべき行動についての話し合い」が 16.4%と続いている。
- 一方、「特に考えていない」と答えた回答者の割合は 32.6%である。



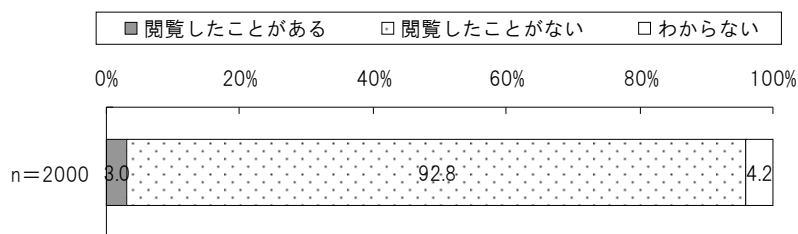
③ 防災全般に関する知識や情報を提供してほしい媒体（Q9）

- 防災全般に関する知識や情報を提供してほしい媒体としては、「テレビやラジオ」をあげた回答者の割合が 68.7%と最も高く、次いで、「新聞や雑誌」が 40.9%、「学校での教育」が 39.9%と続いている。



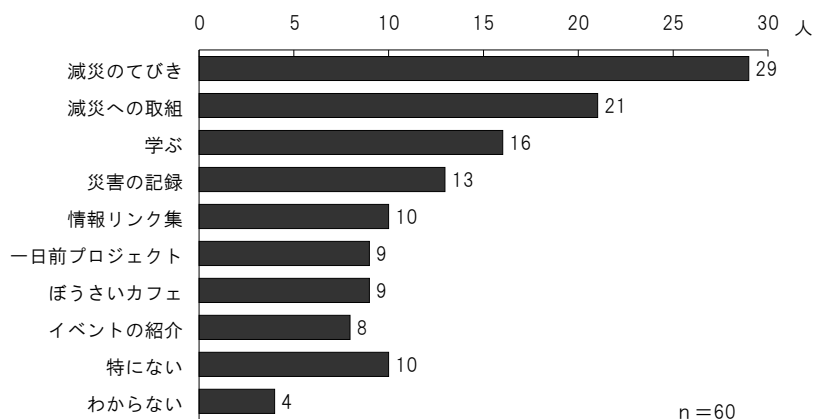
④ 「災害被害を軽減する国民運動のページ」の閲覧の有無（Q10）

- 内閣府の「災害被害を軽減する国民運動のページ」を「閲覧したことがある」と答えた回答者の割合は 3.0%である。



⑤ 活用したいと思ったコンテンツ（Q10-1）

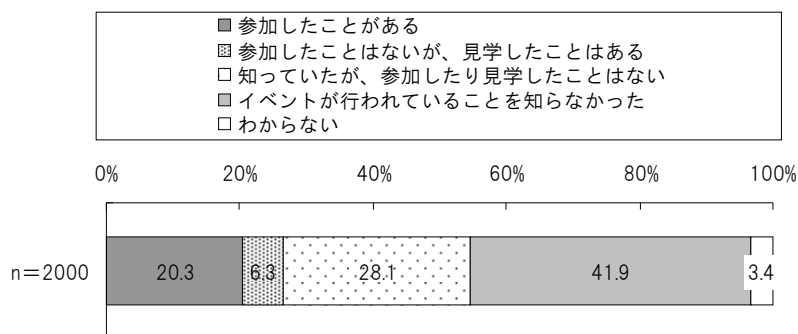
- 内閣府の「災害被害を軽減する国民運動のページ」を閲覧したことがあると答えた60人に対して、活用したいコンテンツを尋ねたところ、「減災のてびき」をあげた回答者が29人、「減災の取組み」が21人、「学ぶ」が16人となっている。



（4）防災関連のイベントに関する意識

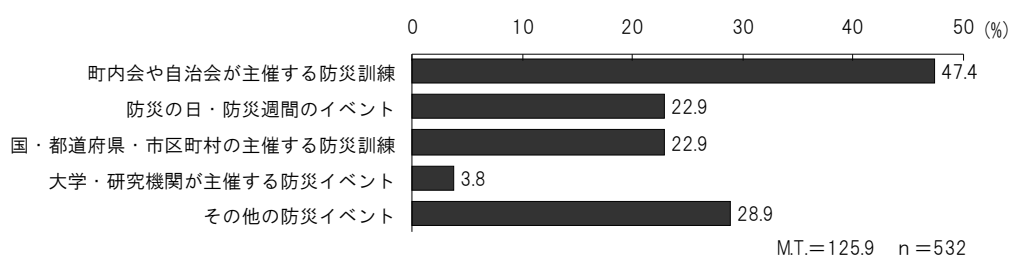
① 防災関連のイベントへの参加・見学状況（Q11）

- 過去3年間の防災関連のイベント（訓練や催事など）への参加・見学状況については、「イベントが行われていることを知らなかった」と答えた回答者の割合が41.9%と最も高く、「知っていたが、参加したり見学したことはない」の28.1%と合わせると70.0%にのぼる。
- 「参加したことがある」と答えた回答者の割合は20.3%であった。



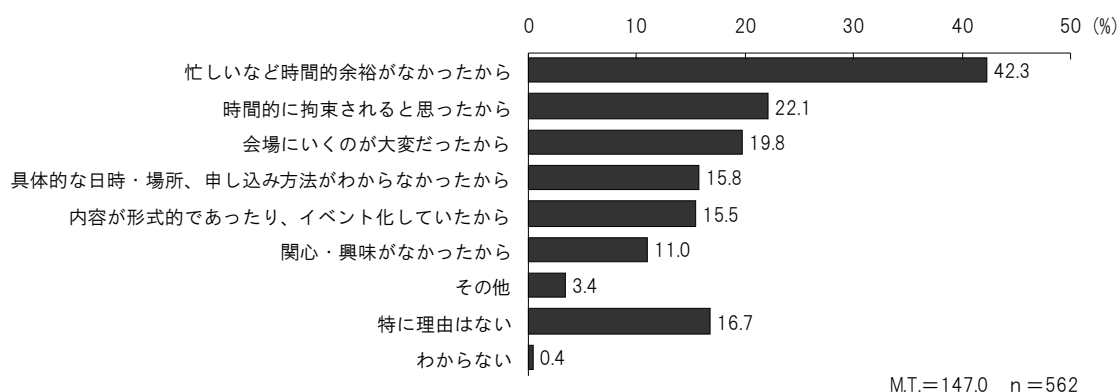
② 参加・見学したことがあるイベント（Q11-1）

- 防災関連のイベントに参加・見学したことがあると答えた 532 人に対して、どのようなイベントか尋ねたところ、「町内会や自治会が主催する防災訓練」をあげた回答者の割合が 47.4%と最も高い。
- 「防災の日・防災週間のイベント」、「国・都道府県・市区町村の主催する防災訓練」をあげた回答者の割合はともに 22.9%である。



③ 参加・見学しない理由（Q11-2）

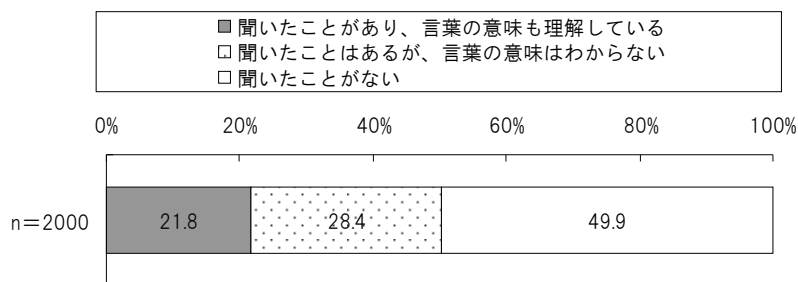
- 防災関連のイベントが行われていることは知っていたが、参加したり見学したことはないと答えた 562 人に対して、その理由を尋ねたところ、「忙しいなど時間的余裕がなかったから」をあげた回答者の割合が 42.3%と最も高く、次いで、「時間的に拘束されると思ったから」が 22.1%、「会場に行くのが大変だったから」が 19.8%と続いている。



(5) 災害時の助け合いに関する意識

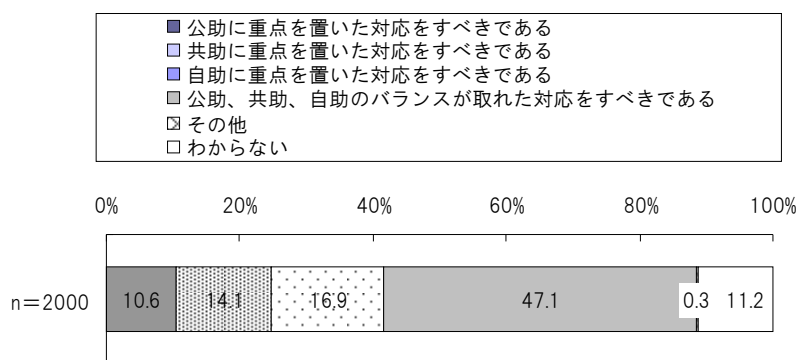
① 防災に関する自助・共助・公助という言葉の認知度 (Q 1 2)

- 「自助」・「共助」・「公助」という言葉を「聞いたことがない」と答えた回答者の割合が 49.9%と最も高い。
- 一方、「聞いたことがあり、言葉の意味も理解している」と答えた回答者の割合は 21.8%にとどまっている。



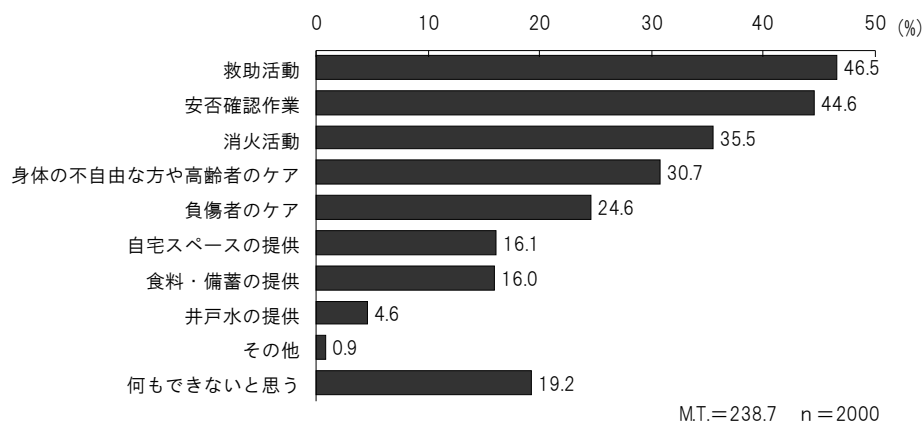
② 災害発生時取るべき対応 (Q 1 3)

- 災害発生時取るべき対応としては、「公助、共助、自助のバランスが取れた対応をすべきである」と答えた回答者の割合が 47.1%と最も高く、次いで、「自助に重点を置いた対応をすべきである」が 16.9%、「共助に重点を置いた対応をすべきである」が 14.1%と続いている。



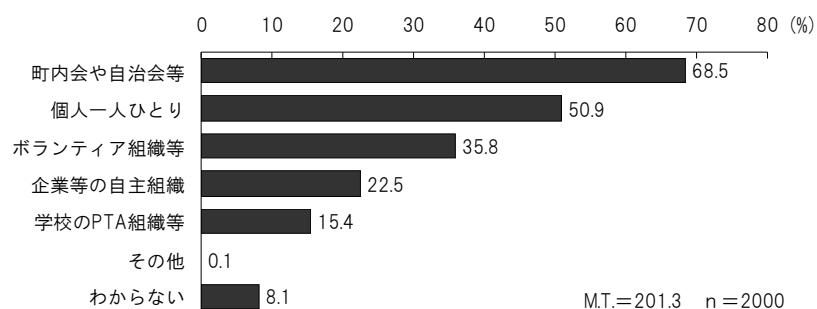
③ 住民同士の助け合いが必要になった際に出来ること (Q14)

- 災害時に住民同士の助け合いが必要になった際に出来ることとしては、「救助活動」をあげる回答者の割合が 46.5%と最も高く、次いで、「安否確認作業」が 44.6%、「消火活動」が 35.5%と続いている。
- 一方、「何もできないと思う」と答えた回答者の割合は 19.2%となっている。



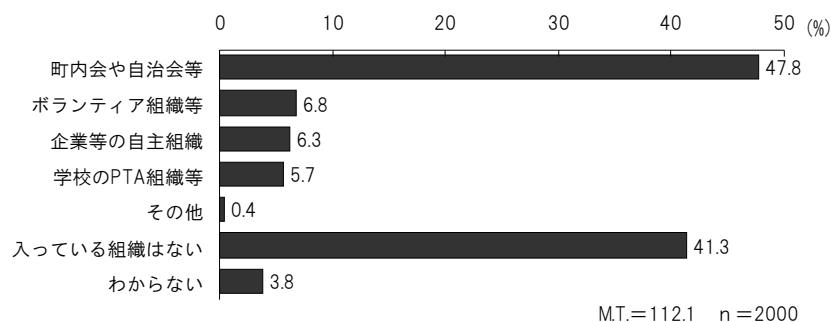
④ 災害時の地域活動において一翼を担うべきもの (Q15)

- 災害時に行政のほかに地域活動において一翼を担うべきものとしては、「町内会や自治会等」をあげる回答者の割合が 68.5%と最も高く、次いで、「個人一人ひとり」が 50.9%、「ボランティア組織等」が 35.8%で続いている。



⑤ 災害時の地域活動において一翼を担うと考えられる組織への参加（Q16）

- 災害時に地域活動において一翼を担うと考えられる組織への参加状況については、「町内会や自治会等」に入っている回答者の割合が47.8%と最も高い。
- 一方、「入っている組織はない」と答えた回答者の割合が41.3%となっている。



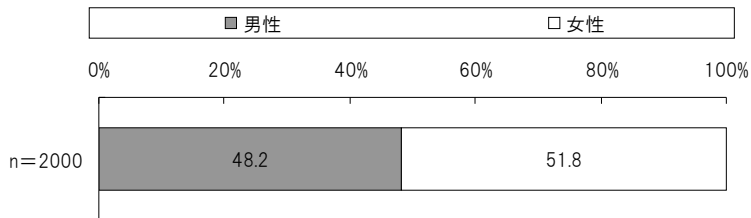
（6）自助・共助の促進のために国や自治体に期待すること

① 自助・共助の促進のために国や自治体に期待すること（Q17）

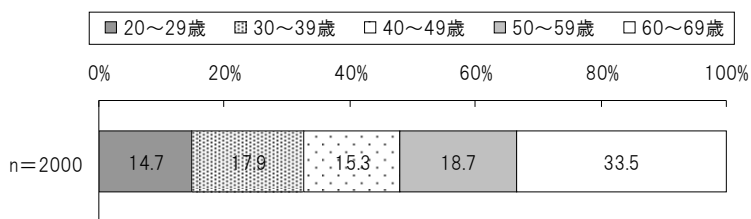
- 主な回答としては以下のようなものがある。
 - ・ 広報活動、啓蒙活動、情報提供
 - ・ マスコミを介したPR活動やCMの活用
 - ・ 災害時の迅速な対応
 - ・ 災害時の迅速で正確な情報提供
 - ・ 「自助」「共助」についての具体的でわかりやすい説明
 - ・ 金銭的な援助
 - ・ 防災グッズ、資機材の配布
 - ・ 個人でできることは限りがある
 - ・ 自治体のわかりやすい説明、マニュアル・ガイドラインづくり
 - ・ ライフラインの確保
 - ・ 災害時にリーダーシップをとれる人材
 - ・ 災害に備えた組織づくり、体制づくり
 - ・ 参加しやすい防災訓練
 - ・ 地域住民との連携
 - ・ 安全な避難所の確保

(7) 回答者の属性

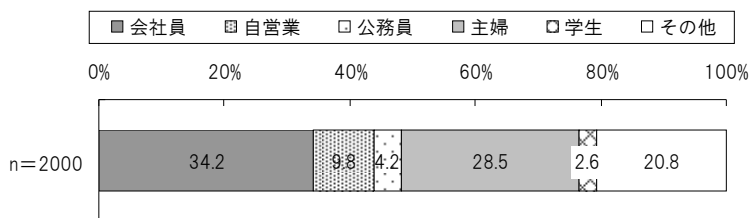
① 性別 (F 1)



② 年齢 (F 2)

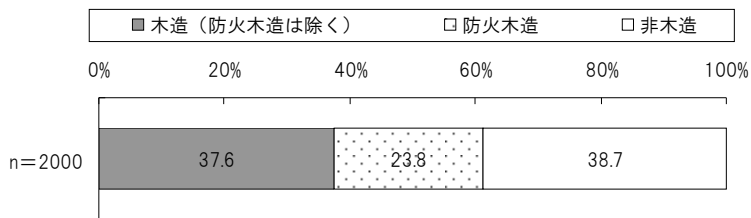


③ 職業 (F 3)

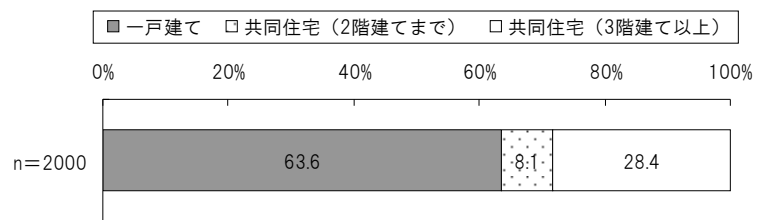


④ 住居構造 (F 4)

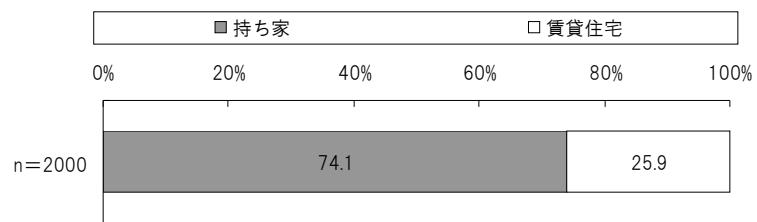
(その1)



(その2)



(その3)



3. アンケート調査項目

(1) 災害対策に関する意識

Q 1. あなたは、今まで災害によって被害を受けたり、身近に危険を感じたことはありますか。この中からいくつでもあげてください。

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1. 地震 | 9. 雪崩 |
| 2. 津波 | 10. 火山噴火 |
| 3. 台風（暴風雨） | 11. 落雷 |
| 4. 豪雨 | 12. 竜巻 |
| 5. 河川の氾濫 | 13. ガス爆発 |
| 6. 土砂崩れ・崖崩れ | 14. 火災 |
| 7. 高潮 | 15. その他 |
| 8. 豪雪 | 16. 被害や危険を感じたことはない |

Q 2. あなたは、あなたの住んでいる地域が災害に対し安全だと感じていますか。それとも危険だと感じていますか。この中から1つお答えください。

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. 安全 | 4. ある程度危険 |
| 2. ある程度安全 | 5. 危険 |
| 3. 安全とも危険ともいえない地震 | 6. わからない |

Q 3. あなたは、家族や身近な人と、災害が起きた時の安否確認方法について話し合い、取り決めていますか。この中から1つお答えください。

- | | |
|--------|---------|
| 1. はい | → Q3-1へ |
| 2. いいえ | |

Q 3-1. それはどのような方法ですか。この中からいくつでもあげてください。

- | |
|--|
| 1. 171 災害用伝言ダイヤルで無事を知らせる |
| 2. ケータイ災害用伝言板サービスで無事を知らせる |
| 3. Web171 災害用ブロードバンド伝言板で無事を知らせる |
| 4. 遠くの親戚や知人を中継役と決め、そこに連絡する |
| 5. 離れて暮らすと親や子どもの安否を知るために、隣近所や町内会等の連絡先を把握している |
| 6. 保育園、幼稚園、小学校等に通う子どもの引き取りに関する取り決めを確認している |
| 7. 勤め先の安否確認システムを利用する |
| 8. その他 |

Q 4. あなたやご家族は、自宅以外の場所へ避難しなければならない事態に備えてどのような対策をとっていますか。この中からいくつでもあげてください。

- | |
|----------------------------|
| 1. 避難場所の位置を確認している |
| 2. 実際に避難場所まで行き、避難経路も確認している |
| 3. 家族との連絡方法を決めている |
| 4. 家族が落ち合う場所を決めている |
| 5. 特に何もしていない |
| 6. その他 |

Q5. あなたは、外出中の被災に備えていつも何を身につけていますか。この中からいくつでもあげてください。

- | |
|------------------------------|
| 1. 身元や血液型、連絡先等を記したカード |
| 2. かかりつけの病院の診察券や病名・処方薬を書いたメモ |
| 3. 状況を把握するためのポケットラジオ、メモ帳、筆記具 |
| 4. LED ランプ付きキーホルダーや笛 |
| 5. ペットボトルの水やチョコレート |
| 6. マスクやハンカチ |
| 7. 会社で配付された防災手帳や緊急連絡網など |
| 8. 臓器提供意思表示カード |
| 9. その他 |
| 10. わからない |

(2) 地震対策に関する意識

Q6. あなたのお住まいは、阪神・淡路大震災のような大地震に対しても大丈夫だ（倒壊や損傷をしない）と思いますか。それとも危ないと思いますか。この中から1つお答えください。

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 大丈夫だと思う | 4. 危ないと思う |
| 2. たぶん大丈夫だと思う | 5. どちらともいえない |
| 3. 少し危ないと思う | 6. わからない |

Q7. あなたの家では、大地震が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。この中からいくつでもあげてください。

- | |
|---|
| 1. 消火器や水をはったバケツを準備している |
| 2. いつも風呂の水をためおきしている |
| 3. 家具や冷蔵庫などを固定し、転倒を防止している → していない場合、Q7-1へ |
| 4. 食器棚や本棚は揺れによって中のものが飛び出さないように工夫している |
| 5. タンスは固定し、扉が開いたり引き出しが飛び出さないように耐震ロック（耐震ラッチ）などをつけている |
| 6. 万一倒れてきても安全なように、家具の向きを変えている |
| 7. 新しい家具を買う時は、背が低いものを選ぶ |
| 8. 基本的に、重いものは上に置かないようにしている |
| 9. 窓ガラスを強化ガラスに替えたり、ガラス類にフィルムを貼ったりしている |
| 10. ブロック塀を点検し、倒壊を防止している |
| 11. 耐震補強工事をしている → していない場合、Q7-2へ |
| 12. 耐震診断を行い、自分の家の危険度を把握している |
| 13. 食糧や飲料水を準備している |
| 14. 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している |
| 15. 非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している |
| 16. スリッパやズック靴などをいつでも使えるように置いている |
| 17. 貴重品などをすぐに持ち出せるように準備している |
| 18. スペアのメガネ、常備薬、入れ歯や補聴器等無ければ困るものを準備している |
| 19. 防塵マスクを準備している |
| 20. 修理・工作用具を準備している |
| 21. 非常用トイレを準備している |
| 22. 家族との連絡方法などを決めている |

23. ハザードマップで地震防災情報を確認している
24. 近くの学校や公園など避難する場所を決めている
25. 防災訓練に積極的に参加している
26. その他（自由記述）
27. 特に何もしていない
28. わからない

Q7-1. あなたが家具や冷蔵庫などを固定していない理由は何ですか。この中からいくつでもあげてください。

1. どうやって固定したらよいかわからないから
2. 固定する方法はわかっても、自分ではできないと思うから
3. 部屋の見た目が悪くなるから
4. 家具等や壁に傷をつけるから
5. 面倒くさいから
6. お金がかかるから
7. 地震が起きても転倒しないと思うから
8. 転倒しても危険ではないと思うから
9. 固定しても大地震の時には効果がないと思うから
10. その他
11. 特にない
12. わからない

Q7-2. あなたが耐震補強工事をしていない理由は何ですか。この中からいくつでもあげてください。

1. 地震に強い家・住宅に住んでいると思うから
2. どうやって着手・施工したらよいかわからないから
3. 見た目が悪くなるから
4. 面倒くさいから
5. お金がかかるから
6. 必要性を実感できないから
7. 効果があるか不明だから
8. 集合住宅や借家などに住んでおり、自分だけでは判断できないから
9. その他
10. 特にない
11. わからない

(3) 防災情報に関する意識

Q8. あなたは、「緊急地震速報」をご存知ですか。

1. 知っている → Q8-1へ
2. 知らない

Q8-1. あなたは、緊急地震速報を受け取った場合を想定して、どのような準備をしようと考えていますか。この中からいくつでもお答えください。

1. 家の中の安全な場所の確保
2. 机の下に入る、安全な場所に移動する等のとるべき行動の確認
3. 家庭内でとるべき行動についての話し合い

- 4. その他
- 5. 特に考えていない
- 6. わからない

Q 9. あなたは、防災全般に関する知識や情報を何によって提供されたらよいと思いますか。この中からいくつかあげてください。

- 1. 学校での教育
- 2. 防災訓練・避難訓練
- 3. 防災に関する展示会やシンポジウム
- 4. 公民館や図書館で行う防災に関する講座やセミナー
- 5. 大学の教授など専門家の講演会
- 6. 国や自治体で配布するパンフレット
- 7. インターネット
- 8. 自治会などの会合や知人・友人等との会話
- 9. テレビやラジオ
- 10. 新聞や雑誌
- 11. その他
- 12. 特にない
- 13. わからない

Q 10. 内閣府では、防災全般に関する情報を提供するために「災害被害を軽減する国民運動のページ」というウェブサイトを開設していますが、あなたは、このウェブサイトを閲覧したことがありますか。この中から1つお答えください。

- 1. 閲覧したことがある → Q 10-1へ
- 2. 閲覧したことがない
- 3. わからない

Q 10-1. ウェブサイトに掲載されているコンテンツの中であなたが活用したいと思ったものはどれですか。この中からいくつかあげてください。

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 減災のてびき | 6. 学ぶ |
| 2. 一日前プロジェクト | 7. 情報リンク集 |
| 3. ぼうさいカフェ | 8. イベントの紹介 |
| 4. 減災への取組 | 9. 特にない |
| 5. 災害の記録 | 10. わからない |

(4) 防災関連のイベントに関する意識

Q 11. あなたは、ここ3年ぐらいの間に防災関連のイベント（訓練や催事など）に参加したり見学したことがありますか。この中から1つお答えください。

- 1. 参加したことがある
- 2. 参加したことはないが、見学したことはある → Q 11-1へ
- 3. イベントが行われていることは知っていたが、参加したり見学したことはない → Q 11-2へ
- 4. イベントが行われていることを知らなかった
- 5. わからない

Q 1 1 - 1. それほどのようなイベントですか。この中からいくつでもあげてください。

1. 防災の日（9月1日）・防災週間（8月30日～9月5日）のイベント
2. 国・都道府県・市区町村の主催する防災訓練
3. 町内会や自治会が主催する防災訓練
4. 大学・研究機関が主催する防災イベント
5. その他の防災イベント

Q 1 1 - 2. イベントに参加したり見学しないのはなぜですか。この中からいくつでもあげてください。

1. 内容が形式的であったり、イベント化していたから
2. 具体的な日時・場所、申し込み方法がわからなかったから
3. 会場に行くのが大変だったから
4. 関心・興味がなかったから
5. 時間的に拘束されると思ったから
6. 忙しいなど時間的余裕がなかったから
7. その他
8. 特に理由はない
9. わからない

（5）災害時の助け合いに関する意識

Q 1 2. あなたは、防災に関して「自助」、「共助」、「公助」という言葉をご存知ですか。この中から1つお答えください。

1. 聞いたことがあり、言葉の意味も理解している
2. 聞いたことはあるが、言葉の意味はわからない
3. 聞いたことがない

Q 1 3. 災害が発生した時にその被害を軽減するために取る対応について、国や地方公共団体による「公助」、地域の住民やボランティア、企業等の連携による「共助」、自ら身を守る「自助」というものがあります。災害発生時に取るべき対応として、この中からあなたのお気持ちに最も近いものを1つお答えください。

1. 公助に重点を置いた対応をすべきである
2. 共助に重点を置いた対応をすべきである
3. 自助に重点を置いた対応をすべきである
4. 公助、共助、自助のバランスが取れた対応をすべきである
5. その他
6. わからない

Q 1 4. 地域で大規模な災害が発生し、住民同士の助け合いが必要になった場合、あなたなら何ができると思いますか。この中からいくつでもあげてください。

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. 救助活動 | 6. 食料・備蓄の提供 |
| 2. 消火活動 | 7. 井戸水の提供 |
| 3. 安否確認作業 | 8. 自宅スペースの提供 |
| 4. 負傷者のケア | 9. その他（自由記述） |
| 5. 身体の不自由な方や高齢者のケア | 10. 何もできないと思う |

Q 15. 災害時の行政による活動のほかに、地域の活動において一翼を担うべきものは何だと思いますか。この中からいくつでもあげてください。

- | | |
|----------------|------------|
| 1. 町内会や自治会等 | 5. 個人一人ひとり |
| 2. 学校の PTA 組織等 | 6. その他 |
| 3. ボランティア組織等 | 7. わからない |
| 4. 企業等の自主組織 | |

Q 16. あなたは、災害時に地域の活動において一翼を担うと考えられる組織のどれかに入っていますか。この中からいくつでもあげてください。

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 町内会や自治会等 | 5. その他 |
| 2. 学校の PTA 組織等 | 6. 入っている組織はない |
| 3. ボランティア組織等 | 7. わからない |
| 4. 企業等の自主組織 | |

(6) 自助・共助の促進のために国や自治体に期待すること

Q17. 今後、防災に関して「自助」、「共助」が促進されるために、国や自治体に期待することは何ですか。あなたの率直なご意見をご記入ください。

(7) 基礎情報

F1. あなたのご職業は何ですか。この中から1つお答えください。

- | | |
|--------|--------|
| 1. 会社員 | 4. 主婦 |
| 2. 自営業 | 5. 学生 |
| 3. 公務員 | 6. その他 |

F2-1. あなたのお住まいは、このように分類した場合どれでしょうか。この中から1つお答えください。

- | |
|---|
| 1. 木造（防火木造は除く） |
| 2. 防火木造（屋根や外壁などが、モルタル、トタンなどの防火材料でできているもの） |
| 3. 非木造（ブロック造りや鉄骨・鉄筋コンクリート造り、れんが造り、石造りのもの） |

F2-2. あなたのお住まいは、このように分類した場合どれでしょうか。この中から1つお答えください。

- | |
|-----------------|
| 1. 一戸建て |
| 2. 共同住宅（2階建てまで） |
| 3. 共同住宅（3階建て以上） |

F2-3. あなたのお住まいは、このように分類した場合どれでしょうか。この中から1つお答えください。

- | |
|---------|
| 1. 持ち家 |
| 2. 賃貸住宅 |

防災に関するアンケート調査（地域別集計の特徴）

「防災に関するアンケート調査」（ウェブ調査）で得られた回答を、指定地域（東海地震に係る地震防災対策強化地域、東南海・南海地震防災対策推進地域、首都直下地震の被害想定に含まれる都県、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域）別に集計したところ、以下のような傾向が見られた。

1. 指定地域、指定地域以外の別

Q1 災害被害・危険覚知の経験

- 指定地域に住む回答者は、指定地域以外の地域に住む回答者と比較して、の被害や危険を感じた経験がある災害として「台風（暴風雨）」をあげる割合が低い。

Q2 居住地域の安全度

- 指定地域以外に住む回答者は、指定地域に住む回答者と比較して、「ある程度安全」を選択する割合が高い。

Q4 自宅外への避難に備えた対策

- 指定地域に住む回答者は、指定地域以外の地域に住む回答者と比較して、自宅以外への避難に備えた対策として「避難場所の位置を確認している」をあげる割合が高い。

Q7 大地震に備えた対策

- 指定地域に住む回答者は、指定地域以外の地域に住む回答者と比較して、大地震に備えた対策として「食糧や飲料水を準備している」をあげる割合が高い。

Q11-1 参加・見学したことのあるイベント

- 指定地域に住む回答者では、指定地域以外に住む回答者と比較して、参加・見学したことのあるイベントとして、「防災の日・防災週間のイベント」をあげる割合が高く、「国・都道府県・市区町村の主催する防災訓練」をあげる割合が低い。

2. 東海地震に係る地震防災対策強化地域、東南海・南海地震防災対策推進地域、首都直下地震の被害想定に含まれる都県、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域の別

Q2 居住地域の安全度

- 東海地震に係る地震防災対策強化地域に住む回答者は、他の地域に住む回答者と比較して、「ある程度危険」あるいは「危険」を選択する回答者の割合が高い。

Q5 外出中の被災に備えて携帯しているもの

- ・ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域に住む回答者は、他の地域に住む回答者と比較して、外出中の被災に備えて携帯しているものとして、「身元や血液型、連絡先等を記したカード」、「かかりつけの病院の診察券や病名・処方薬を書いたメモ」をあげる割合が高い。
- ・ 首都直下地震の被害想定に含まれる都県に住む回答者は、他の地域に住む回答者と比較して、外出中の被災に備えて携帯しているものとして、「マスクやハンカチ」をあげる割合が高い。

Q6 大地震時の住居倒壊・損傷の可能性

- ・ 東海地震に係る地震防災対策強化地域に住む回答者は、他の地域に住む回答者と比較して、大地震に対して住居が「危ないと思う」を選択する割合が高い。

Q7 大地震に備えた対策

- ・ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域に住む回答者は、他の地域に住む回答者と比較して、大地震に備えた対策として、「いつも風呂の水をためおきしている」、「基本的に、重いものは上におかないようにしている」をあげる割合が高い。

Q7-2 耐震補強工事をしていない理由

- ・ 首都直下地震の被害想定に含まれる都県に住む回答者は、他の地域に住む回答者と比較して、耐震補強工事をしていない理由として「集合住宅や借家等に住んでおり自分だけでは判断できないから」をあげる割合が高い。

Q8 緊急地震速報の認知度

- ・ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域に住む回答者は、他の地域に住む回答者と比較して、緊急地震速報を「知っている」を選択する割合が高い。

Q8-1 緊急地震速報の受信を想定した準備

- ・ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域に住む回答者は、他の地域に住む回答者と比較して、緊急地震速報の受信に備えた対策として「机の下に入る、安全な場所に移動する等のとるべき行動の確認」をあげる割合が高い。
- ・ 首都直下地震の被害想定に含まれる都県に住む回答者は、緊急地震速報の受信に備えた対策について「特に考えていない」をあげる割合が高いが、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域に住む回答者は低い。

Q11 防災関連のイベントへの参加・見学状況

- ・ 東海地震に係る地震防災対策強化地域に住む回答者は、他の地域に住む回答者と比較して、過去 3 年間の防災関連のイベントへの参加・見学状況について、「参加したこ

とがある」を選択する割合が高い。

- ・ 東南海・南海地震防災対策推進地域に住む回答者は、他の地域に住む回答者と比較して、「イベントが行われていることを知らなかった」を選択する割合が高い。

Q11-1 参加・見学したことがあるイベント

- ・ 東海地震に係る地震防災対策強化地域、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災推進地域に住む回答者は、他の地域に住む回答者と比較して、参加・見学したことがあるイベントとして、「防災の日・防災週間のイベント」、「国・都道府県・市区町村の主催する防災訓練」をあげる割合が高い。
- ・ 東海地震に係る地震防災対策強化地域に住む回答者は、他の地域に住む回答者と比較して、参加・見学したことがあるイベントとして、「町内会や自治会が主催する防災訓練」をあげる割合が高い。

Q11-2 参加・見学しない理由

- ・ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域に住む回答者は、他の地域に住む回答者と比較して、防災関連のイベントに参加・見学しない理由として、「会場に行くのが大変だったから」をあげる割合が高い。
- ・ 首都直下地震の被害想定に含まれる都県に住む回答者は、他の地域に住む回答者と比較して、防災関連のイベントに参加・見学しない理由として、「忙しいなど時間的余裕がなかったから」をあげる割合が低い。

Q14 住民同士の助け合いが必要になった際にできること

- ・ 首都直下地震の被害想定に含まれる都県、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域に住む回答者は、他の地域に住む回答者と比較して、住民同士の助け合いが必要になった際にできることとして、「負傷者のケア」、「身体の不自由な方や高齢者のケア」をあげる割合が高い。

Q16 災害時の地域活動において一翼を担うと考えられる組織への参加

- ・ 東海地震に係る地震防災対策強化地域に住む回答者は、他の地域に住む回答者と比較して、災害時に地域活動の一翼を担うと考えられる組織への参加状況として「入っている組織はない」を選択する割合が低い。

防災に関するアンケート調査（年代別集計の特徴）

「防災に関するアンケート調査」（ウェブ調査）で得られた回答を年代別に集計したところ、以下のような傾向が見られた。

Q3-1 家族等との安否確認方法

- ・ 60歳以上の回答者は、安否確認方法として「勤め先の安否確認システムを利用する」をあげる割合が低い。

Q4 自宅外への避難に備えた対策

- ・ 年代が高くなるほど、自宅外への避難に備えた対策として「避難場所の位置を確認している」をあげる割合が高くなる。

Q5 外出中の被災に備えて携帯しているもの

- ・ 年代が高くなるほど、外出中の被災に備えて携帯しているものとして「かかりつけの病院の診察票や病名・処方薬を書いたメモ」をあげる割合が高くなる。

Q6 大地震時の住居倒壊・損傷の可能性

- ・ 20代、30代の回答者は、大地震に対して住居が「危ないと思う」を選択する割合が高い。

Q7 大地震に備えた対策

- ・ 年代が高くなるほど、大地震に備えた対策として「消火器や水をはったバケツを準備している」、「風呂の水をためおきしている」、「基本的に、重いものは上に置かないようにしている」、「食料や飲料水を準備している」、「近くの学校や公園など避難する場所を決めている」をあげる割合が高くなる。

Q7-1 家具や冷蔵庫を固定していない理由

- ・ 20代の回答者は、家具や冷蔵庫を固定していない理由として「どうやって固定したらよいかわからないから」、「面倒くさいから」、「お金がかかるから」をあげる割合が高い。
- ・ 30代の回答者は、家具や冷蔵庫を固定していない理由として「家具等や壁に傷をつけるから」をあげる割合が高い。
- ・ 60歳以上の回答者は、家具や冷蔵庫を固定していない理由として「固定する方法はわかって自分ではできないと思うから」、「転倒しても危険ではないと思うから」、「固定しても大地震のときには効果がないと思うから」をあげる割合が高い。

Q7-2 耐震補強工事をしていない理由

- ・ 年代が高くなるほど、耐震補強工事をしていない理由として「地震に強い家・住宅

に住んでいると思うから」をあげる割合が高くなる。

Q8-1 緊急地震速報の受信を想定した準備

- ・ 60歳以上の回答者は、緊急地震速報受信を想定した準備として「家の中の安全な場所の確保」をあげる割合が高い。

Q9 防災全般に関する知識や情報を提供してほしい媒体

- ・ 年代が高くなるほど、防災全般に関する知識や情報を提供してほしい媒体として「自治会などの会合や知人・友人等との会話」、「テレビやラジオ」、「新聞や雑誌」をあげる割合が高くなる。

Q11 防災関連のイベントへの参加・見学状況

- ・ 年代が低くなるほど、過去3年間の防災関連のイベントへの参加・見学状況として「イベントが行われていることを知らなかった」を選択する割合が高い。

Q11-1 参加・見学したことのあるイベント

- ・ 50代、60歳以上の回答者は、参加・見学したことのある防災関連のイベントとして「町内会や自治会が主催する防災訓練」をあげる割合が高い。

Q11-2 参加・見学しない理由

- ・ 年代が高くなるほど、防災関連のイベントに参加・見学しない理由として「内容が形式的であったり、イベント化していたから」をあげる割合が高くなる。

Q12 防災に関する自助・共助・控除という言葉の認知度

- ・ 年代が低くなるほど、防災に関する自助・共助・公助という言葉の認知度として「聞いたことがない」を選択する割合が高くなる。

Q13 災害発生時に取るべき対応

- ・ 年代が高くなるほど、災害発生時に取るべき対応として「公助・共助・自助のバランスが取れた対応をすべきである」を選択する割合が高くなる。

Q16 災害時の地域活動において一翼を担うと考えられる組織への参加

- ・ 年代が高くなるほど、災害時に地域活動の一翼を担うと考えられる組織への参加状況として「町内会や自治会等」をあげる割合が高くなる。